

# 2012年度1Q決算の概要

2012年7月30日  
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。なお、当社と(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津は平成24年1月1日に合併しており、本資料中で「棒鋼・線材カンパニー」「ステンレス・チタン事業本部他」と標記した平成24年3月期第3四半期までの数値は、それぞれ合併前の「(株)住友金属小倉」、「(株)住友金属直江津他」の数値となっております。

本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。  
本資料中の見通しはすべて概数で記載しております。

# 12年度1Q決算概要と上期見通し

- 1Qは薄板を主体に減産、2Qは通常ベースに回復見込み。
- 減産影響に加え、原料価格下落に伴う評価損、低価法影響等の一過性要因主体に09/3Q以来の営業損失を計上したが、2Qは販売の回復と一過性要因の減少等により営業利益は240億円程度の黒字の見込み。
- 上期業績見通しの状況を踏まえ、中間配当は見送りの予定。

	12年度			11年度		12上期 前年 同期比	12上期 前期比
	1Q	2Q見通し	上期見通し	上期	下期		
販売数量(万ト)	278	315	593	512	612	81	△ 20
売上高(億円)	3,419	3,780	7,200	6,922	7,811	277	△ 611
営業利益(億円)	△ 112	240	130	412	355	△ 282	△ 225
経常利益(億円)	△ 110	210	100	413	194	△ 313	△ 94
特別損益(億円)	△ 155	-	△ 155	△ 940	△ 179	785	24
当期利益(億円)	△ 200	120	△ 80	△ 323	△ 214	243	134
配当(円/株)			-	1.0	1.0	△ 1.0	△ 1.0

## ● 10/1 の経営統合に向け準備作業は順調に進捗中

### ●6/26 株主総会での統合承認（賛成 91%）



### ●6/26 両社パイプラインエンジニアリング子会社の統合合意

新日鐵住金の経営戦略等については、  
統合ウェブサイトもご参照ください。

<http://www.nssmc.com/>



# 12年度1Q決算実績 及び上期見通し

# 12年度1Q決算実績及び上期見通し

6

- 減産影響に加え、原料価格下落に伴う評価損、低価法影響等の一過性要因主体に09/3Q以来の営業損失を計上したが、2Qは販売の回復と一過性要因の減少等により営業利益は240億円程度の見込み。特別損失に株式評価損を計上。

億円	12年度			11年度				12上期 前年同期 増減	12上期 前期 増減
	1Q	2Q 見通し	上期 見通し	1Q	上期	4Q	下期		
売上高	3,419	3,780	7,200	3,068	6,922	3,974	7,811	277	△ 611
営業利益	△ 112	240	130	168	412	190	355	△ 282	△ 225
経常利益	△ 110	210	100	190	413	42	194	△ 313	△ 94
特別損益	△ 155	0	△ 155	△ 143	△ 940	△ 91	△ 179	785	24
法人税等 少数持分損益	65	△ 90	△ 25	△ 14	203	△ 112	△ 228	△ 228	203
当期純利益	△ 200	120	△ 80	32	△ 323	△ 161	△ 214	243	134
EPS(円)	△ 4.31	2.59	△ 1.73	0.70	△ 6.99	△ 3.48	△ 4.62	5.26	2.89
EBITDA	146	530	680	456	1,000	516	996	△ 320	△ 316
配当(円/株)			-		1.0		1.0	△ 1.0	△ 1.0

# 12年度上期 販売量等の見通し

- 2Qの販売量は回復
- シームレスパイプ上期販売量は52万トンの想定

	12年度		12年度 上期 見通し	
	1Q	2Q 見通し		
為替レート (円/\$)	80	80	80	
粗鋼生産量 (万トン)	307	348	655	
鋼材販売量 (万トン)	278	315	593	
シームレスパイプ 販売量(万トン)	24	28	52	
鋼材 平均単価 (千円/トン)	国内	97.9	96	97
	輸出	91.1	95	93
	平均	94.7	95	95
ドル バランス (億ドル)	受取			33
	支払			△ 33
	合計			0

11年度				12上期 前年同期 増減	12上期 前期 増減
1Q	上期	4Q	下期		
82	80	79	78	0	2円安
277	611	336	661	30	△ 6
224	512	314	612	81	△ 20
23	47	26	52	5	0
113.2	113.4	105.2	106.7	△ 16	△ 10
96.6	98.1	93.6	94.9	△ 5	△ 2
104.5	106.0	99.8	101.4	△ 11	△ 6
	29		35	4	△ 2
	△ 32		△ 38	△ 1	5
	△ 3		△ 3	3	3

※旧住金小倉、住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む

# 特別損失の内訳

- 1Qは株式市場の低迷影響により、投資有価証券評価損を計上

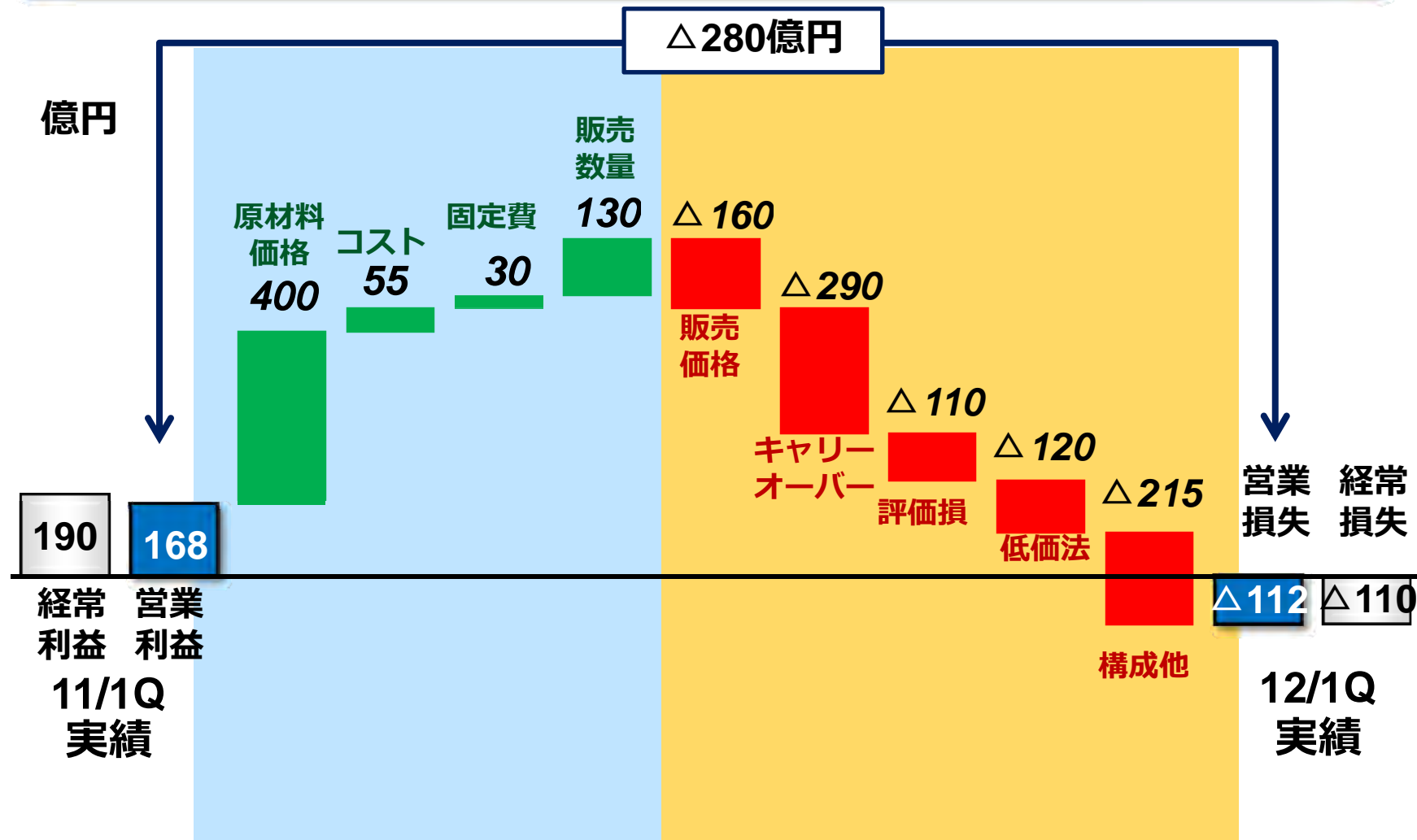
億円	12年度		12年度 上期 見通し
	1Q	2Q 見通し	
減損損失	-	-	-
災害による損失	-	-	-
投資有価証券 売却損	-	-	-
投資有価証券 評価損	△ 155	-	△ 155
事業再編損	-	-	-
排出クレジット 関連損失	-	-	-
特別損失計	△ 155	-	△ 155

11年度				前年同期 増減	前期 増減
1Q	上期	4Q	下期		
-	-	△ 55	△ 55	-	55
△ 123	△ 123	△ 44	△ 44	123	44
△ 19	△ 19	-	-	19	-
-	△ 797	78	△ 10	642	144
-	-	△ 33	△ 33	-	33
-	-	△ 36	△ 36	-	36
△ 143	△ 940	△ 91	△ 179	785	24



# 営業利益増減 (11/1Q→12/1Q)

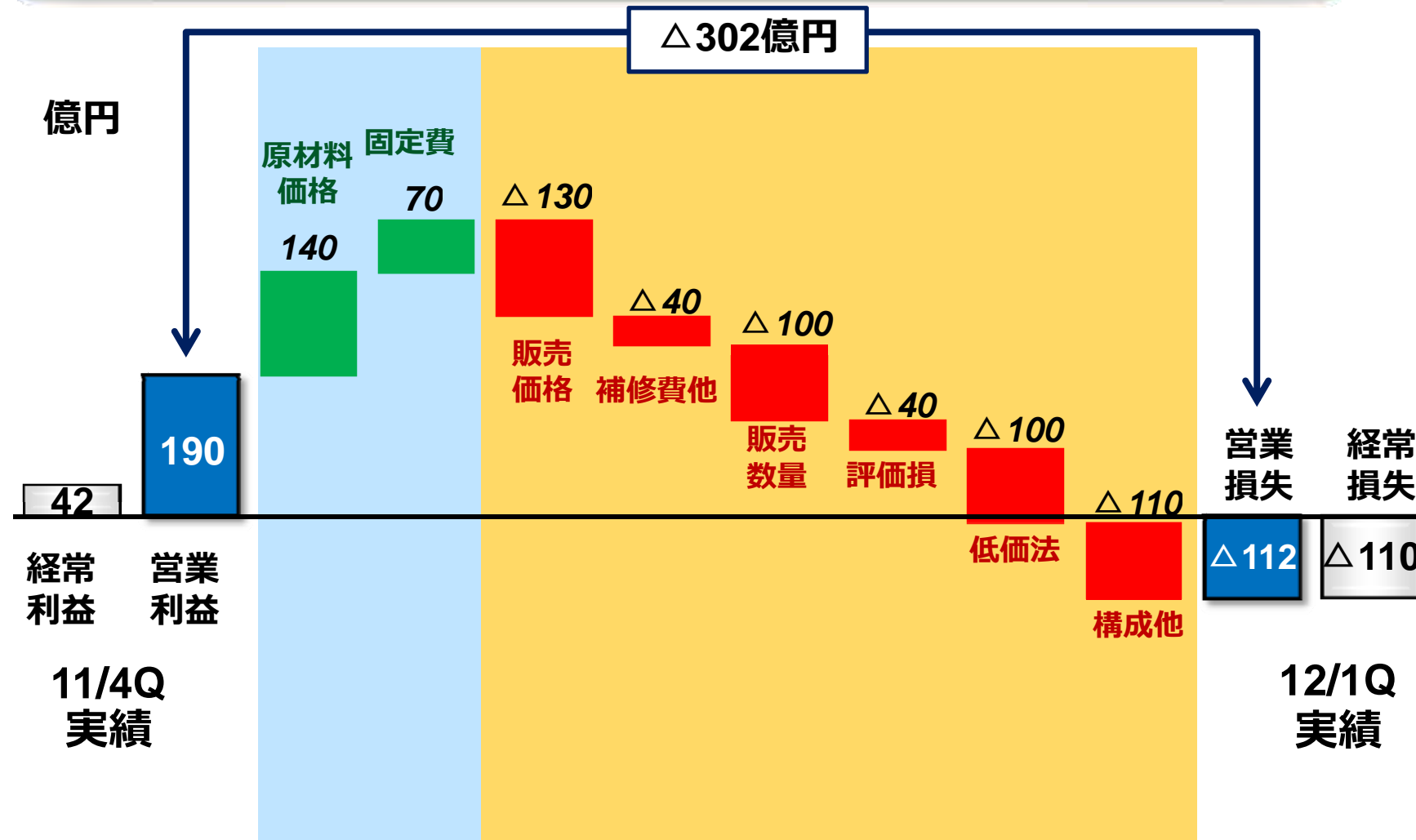
キャリーオーバー・低価法等の一過性要因影響が大きく  
△280億円の減益



●持分法損益 <11/1Q> 47億円 → <12/1Q> 35億円

# 営業利益増減 (11/4Q→12/1Q)

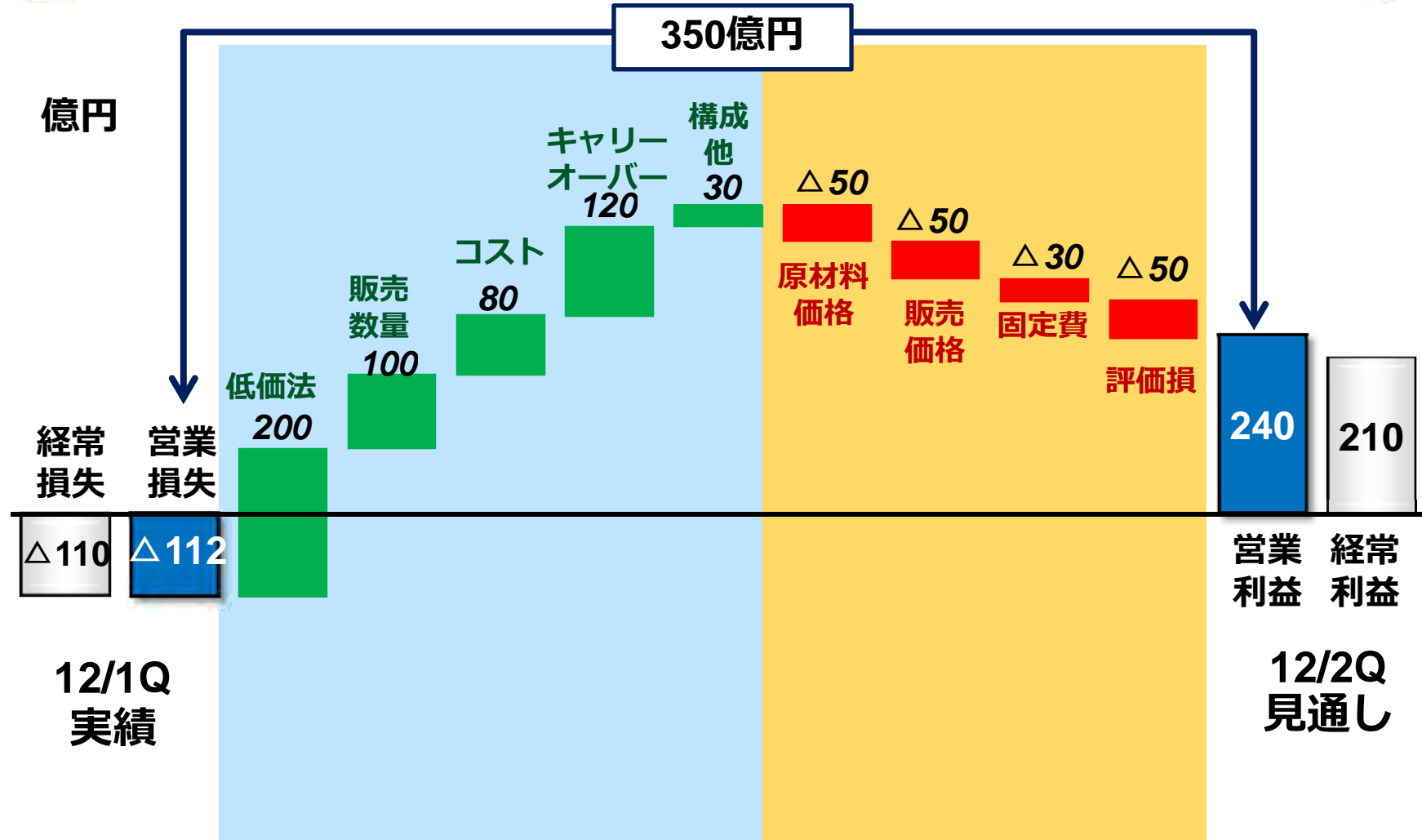
販売数量の減少に加え、評価損・低価法等の一過性要因影響が大きく△302億円の減益



●持分法損益 <11/4Q> △174億円 → <12/1Q> 35億円

# 営業利益増減 (12/1Q→12/2Q見通し)

販売量の回復と前期低価格・キャリーオーバー等の一過性要因影響の減少等により350億円程度の増益見込み

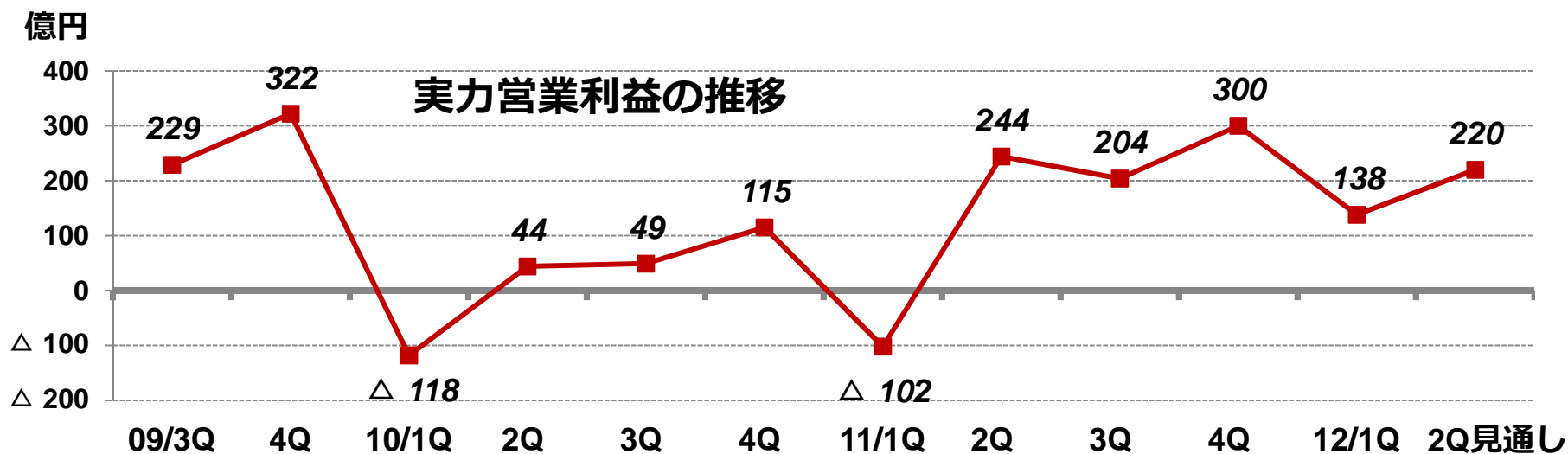


●持分法損益 <12/1Q> 35億円 → <12/2Q> 5億円

# <参考> キャリーオーバー等の影響額

\*全て10億円単位概数 12

億円	11年度				12年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q見通し
営業利益 (A)	168	244	164	190	△ 112	240
キャリーオーバー	180	0	△ 40	△ 110	△ 110	10
評価損益等	70	20	0	0	△ 40	△ 90
棚卸簿価(低価法)	20	△ 20	0	0	△ 100	100
一過性要因計 (B)	270	0	△ 40	△ 110	△ 250	20
実力営業利益 (A-B)	△ 102	244	204	300	138	220

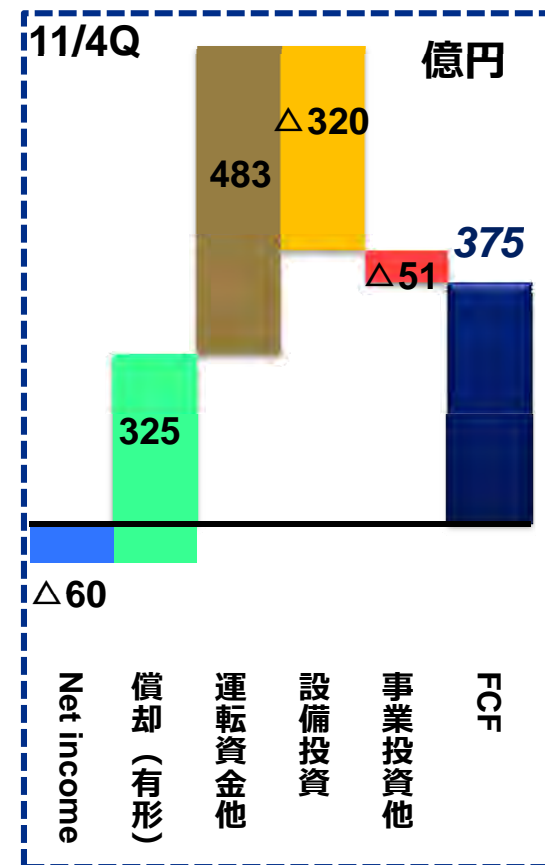
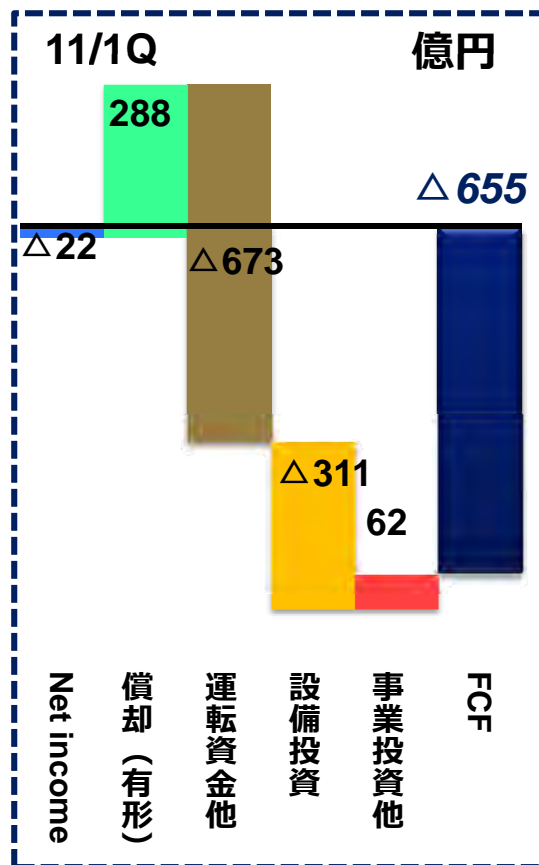
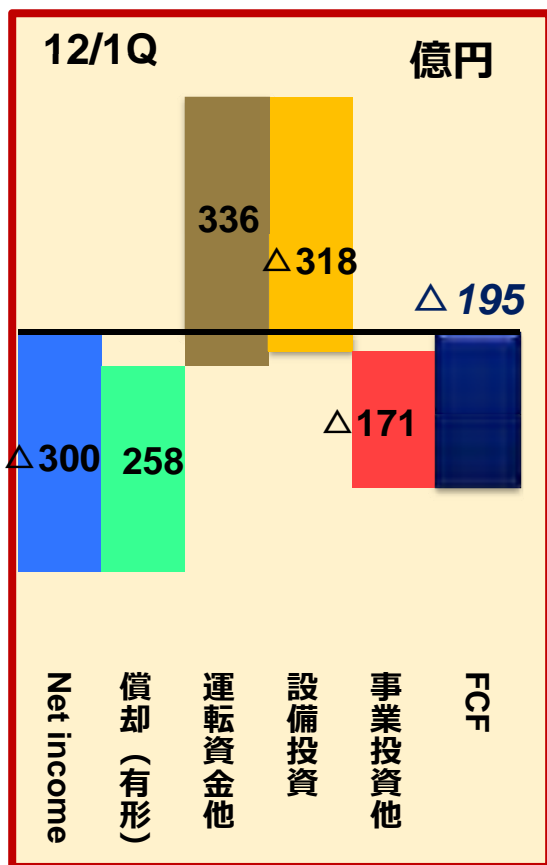


# 12/6E BS概況

億円	11			12		%	12/3E 増減
	6E	9E	12E	3E	6E		
<b>【資産】</b>							
流動資産	6,328	6,935	7,075	6,580	<b>6,363</b>	△ 3.3	△ 217
固定資産	17,915	17,651	17,387	17,280	<b>17,517</b>	1.4	236
資産合計	24,244	24,586	24,462	23,861	<b>23,880</b>	0.1	18
<b>【負債および純資産】</b>							
流動負債	7,931	8,304	7,830	6,910	<b>7,509</b>	8.7	599
固定負債	8,136	8,261	8,993	9,336	<b>8,968</b>	△ 3.9	△ 367
純資産	8,176	8,021	7,638	7,614	<b>7,402</b>	△ 2.8	△ 212
借入残高	11,974	12,072	12,042	11,721	<b>12,006</b>	2.4	285
D/Eレシオ	1.56	1.61	1.69	1.65	<b>1.75</b>	-	0.10

# キャッシュフローの状況

Net income: 税前当期利益+法人税等支払額



億円	12/1Q
営業キャッシュフロー	294
投資キャッシュフロー	△490
フリーキャッシュフロー	△195

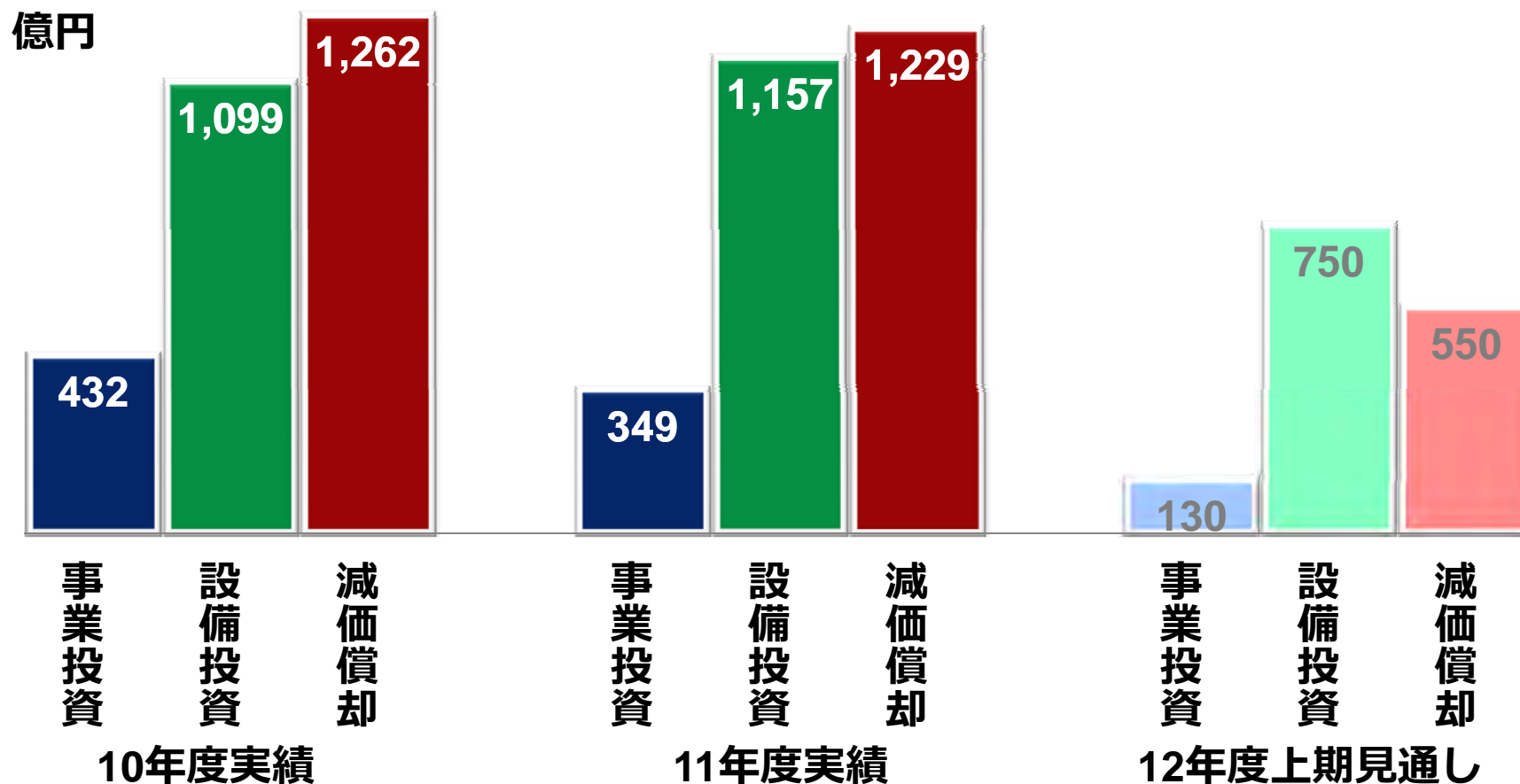
11/1Q
△406
△248
△655

11/4Q
748
△372
375

# 事業投資・設備投資・減価償却費の見通し

上期設備投資は、和歌山上工程更新（本年度下期完工予定）と鹿島震災復旧投資（ガスホルダー・アンローダー等）を中心に高水準の見通し

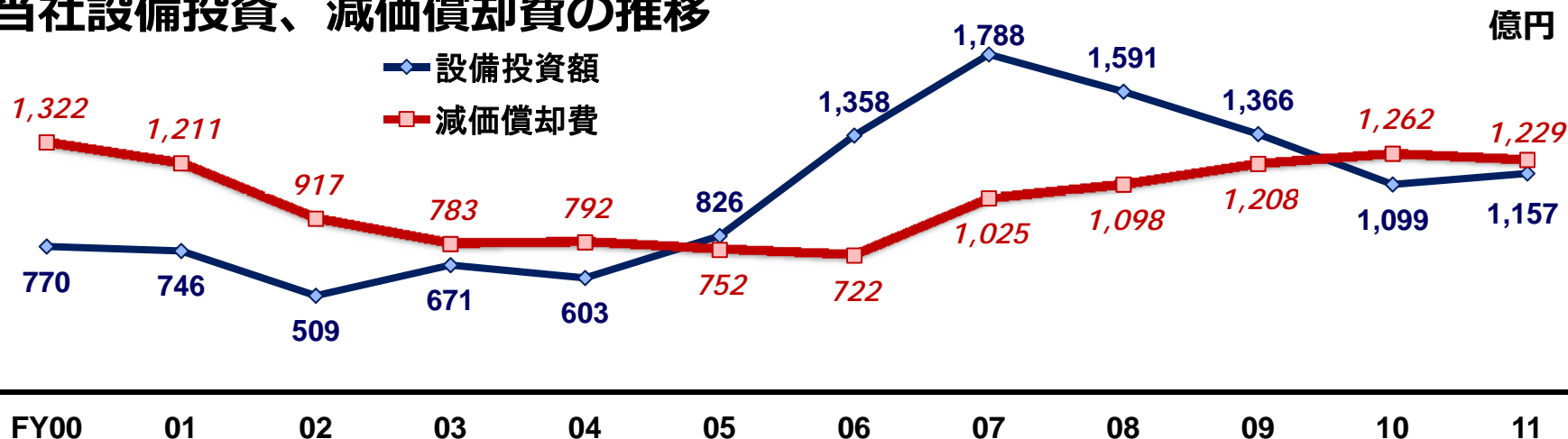
設備投資額は工事ベース,事業投資額は支払いベース,減価償却費は有形固定資産のみ



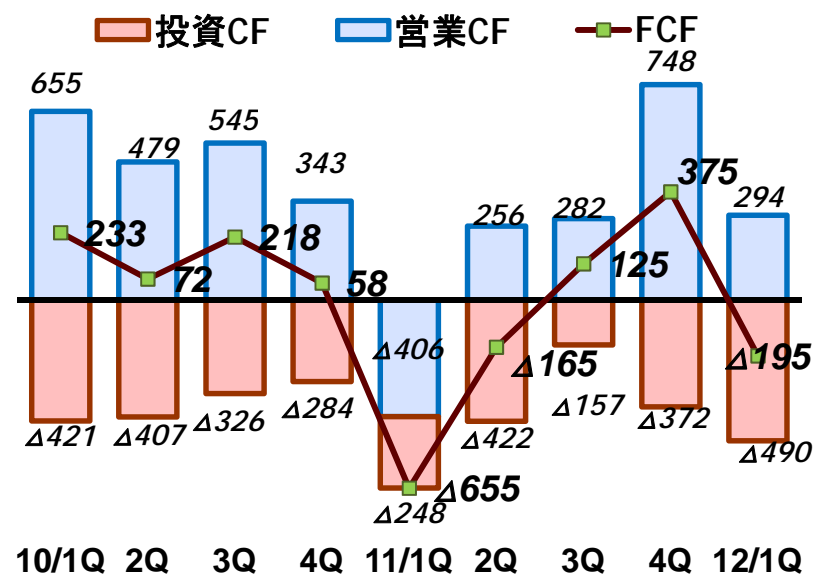
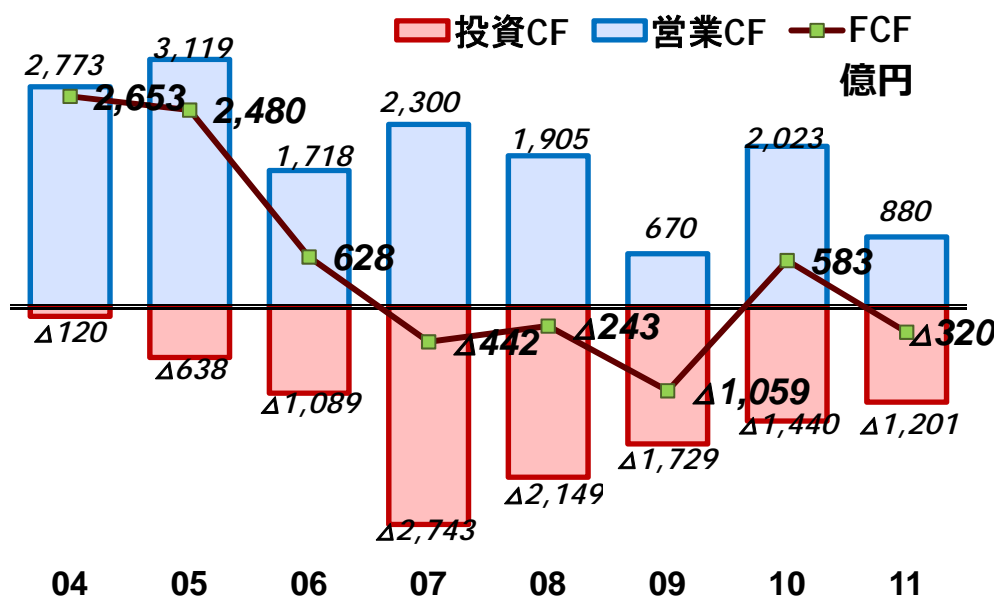
# 設備投資等の推移

※設備投資は工事ベース 減価償却費は有形固定資産のみ

## 当社設備投資、減価償却費の推移



## フリーキャッシュフローの推移





# 主要設備投資・事業投資の進捗

※当社は新日本製鐵株式会社と2012年10月1日に合併予定であり、合併後は下記計画の変化もあり得る点に十分ご留意下さい。

稼動予定年月で記載		投資額	FY11	FY12	FY13	FY14
<b>設備投資</b>						
鋼管	和歌山上工程更新 新第2高炉+CC増強等	1,150 億円		→ 12/下期		
	原子力発電用SG管増産	140 億円		→ 13/4		
その他	総合技術研究所リニューアル機能強化	100 億円	→ 11/10			
<b>事業投資</b>						
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	1,150 億円 (JV合計額)		→ 12年度		
	インドブーシャン社 PJ	技術援助 OEM		● 12/3		→
鋼管	ブラジル高炉一貫 シームレス製鉄所(VSB)	5.4billion BRL (VSB 資本金)		→		
交通産機	インドクランクシャフト合併 (SMAC) 第二ライン設置	1Rs billion (SMAC投資額)		→ 12/11		
	米国スタンダードスチール買収	325million\$	● 11/6			

# 当期の配当予想

## 当期（13/3月期）配当予想

- 上期業績見通しの状況を踏まえ、中間配当は見送りの予定

### <参考> 新日鐵住金株式会社の配当方針

- 業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要資金所用、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針とします。
- 「業績に応じた利益配分」の指標としては、連結配当性向年間20%程度を基準とします。

# 品種別販売等の状況

# セグメント・カンパニー別売上高等の状況

## セグメント・カンパニー別売上高

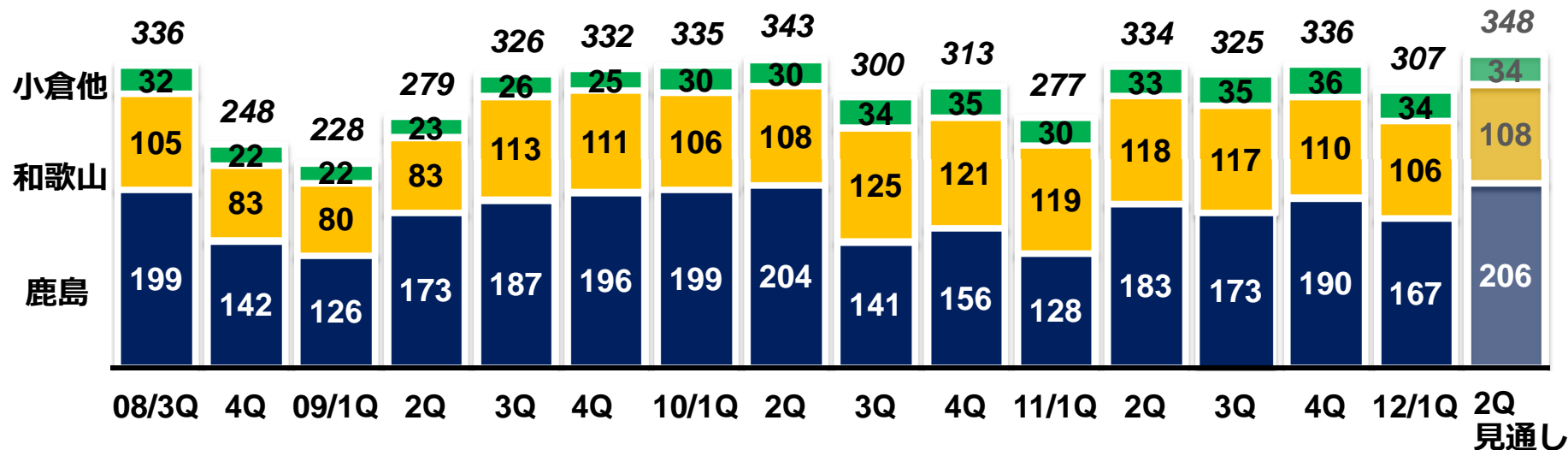
億円	12上期見通し			11上期		前年同期比	
	1Q	2Q見通し	12上期見通し	11上期	11下期	前年同期比	前期比
鋼板・建材	1,237	1,510	2,750	2,537	2,970	212	△ 220
鋼管	1,330	1,370	2,700	2,638	2,946	61	△ 246
交通産機品	316	330	650	522	638	127	11
棒鋼・線材	337	360	700	734	793	△ 34	△ 93
ステンレスチタン他	111	90	200	278	273	△ 78	△ 73
鉄鋼セグメント計	3,334	3,670	7,000	6,711	7,621	288	△ 621
その他	84	110	200	211	189	△ 11	10
売上高計	3,419	3,780	7,200	6,922	7,811	277	△ 611

### (参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

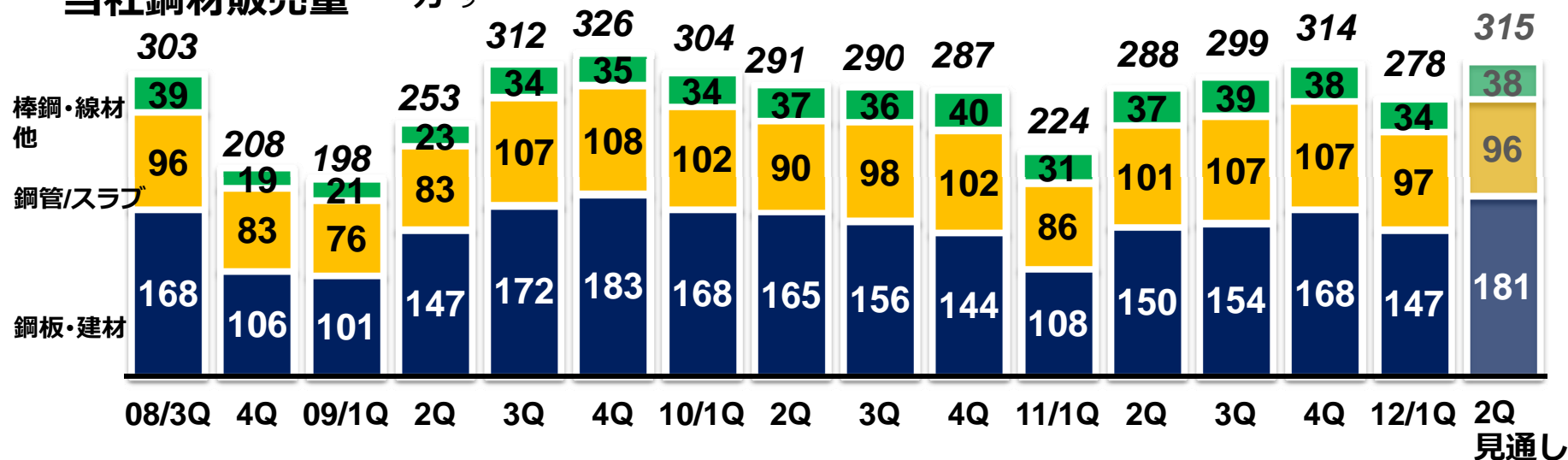
鋼板・建材	△ 200	120	△ 80	110	30	△ 190	△ 110	
鋼管	鋼管	60	70	130	155	195	△ 25	△ 65
	スラブ	△ 50	△ 20	△ 70	△ 5	△ 95	△ 65	25
棒鋼・線材	5	25	30	20	60	10	△ 30	
鉄鋼セグメント計	△ 114	225	110	391	337	△ 281	△ 227	
その他	2	15	20	21	17	△ 1	3	
営業利益計	△ 112	242	130	412	355	△ 282	△ 225	

# 粗鋼生産量と鋼材販売量の推移

## 当社粗鋼生産量 万ト



## 当社鋼材販売量 万ト

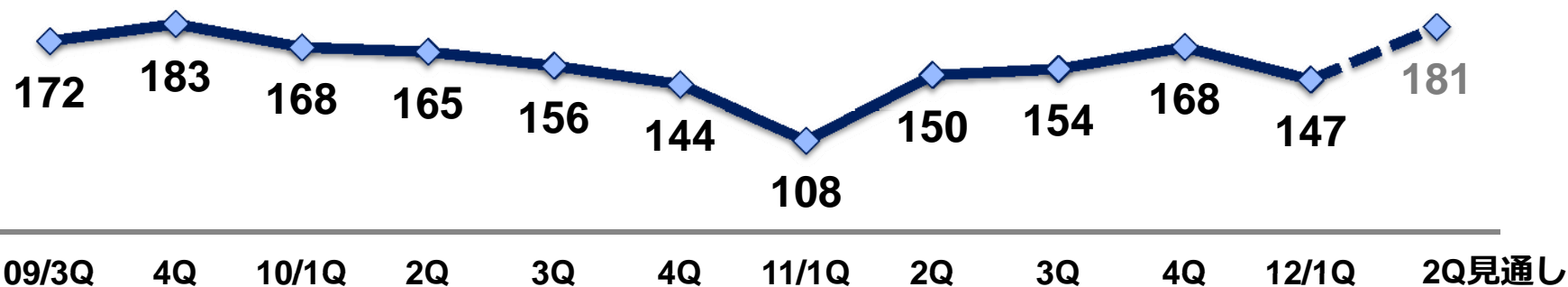


# 鋼材品種別販売状況

## 鋼板・建材

国内自動車向け以外の需要は低調。1Qは、鹿島大型修理影響に加え、建材のミルトラブル影響もあり減産。2Qは平常値に復帰。

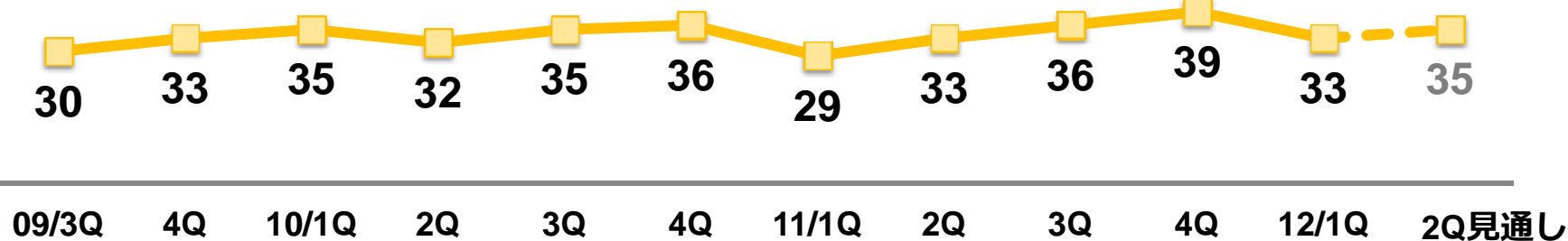
販売量(万ト)



## 鋼管

シームレス：国内・輸出とも堅調な販売  
大径管：上期は需要の端境期で販売減

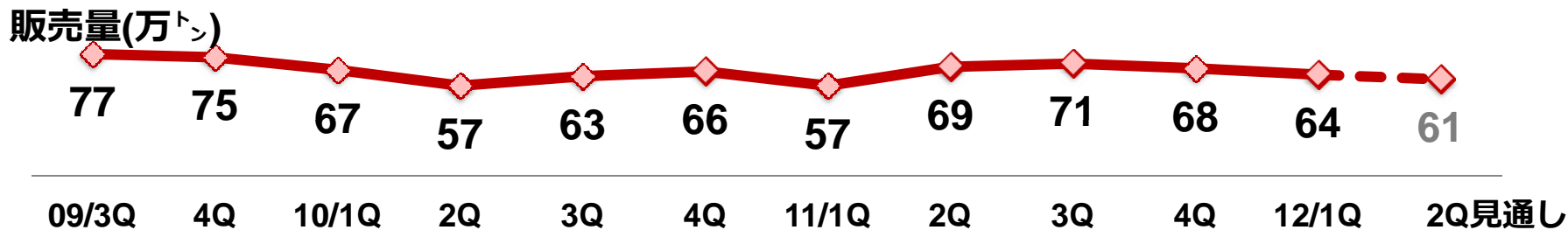
販売量(万ト)



# 鋼材品種別販売状況

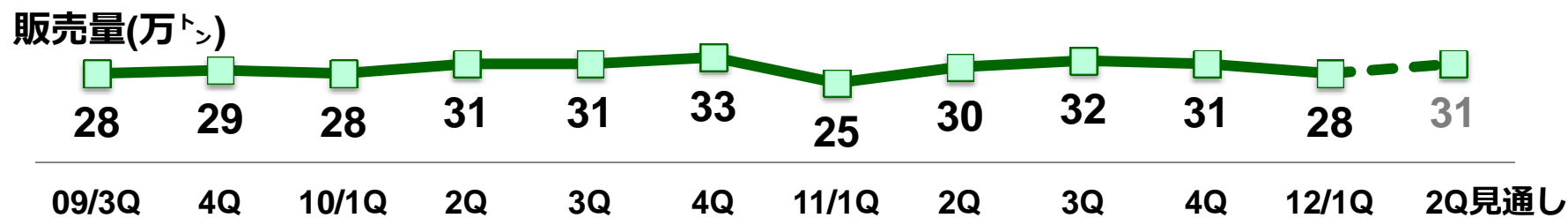
## スラブ

アジア市況品需給状況から若干の減産



## 特殊鋼

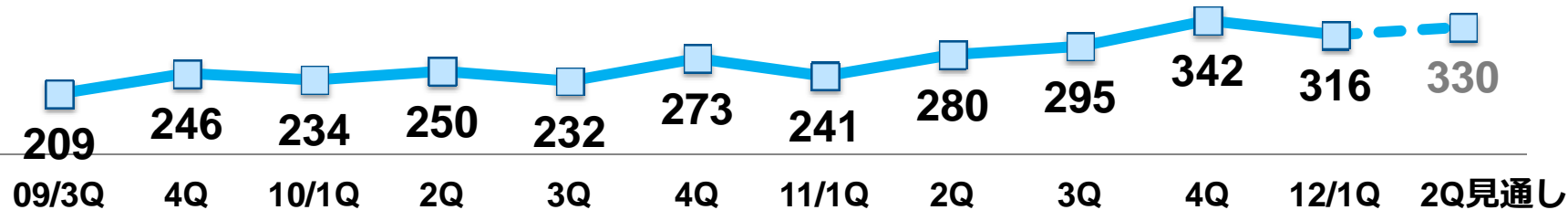
自動車向けは堅調だが建産機向けは中国経済減速を受け低調



## 交通産機品

鉄道車両品：米国向け輸出が回復傾向  
クランクシャフト：自動車向けは堅調、建機向けは減速

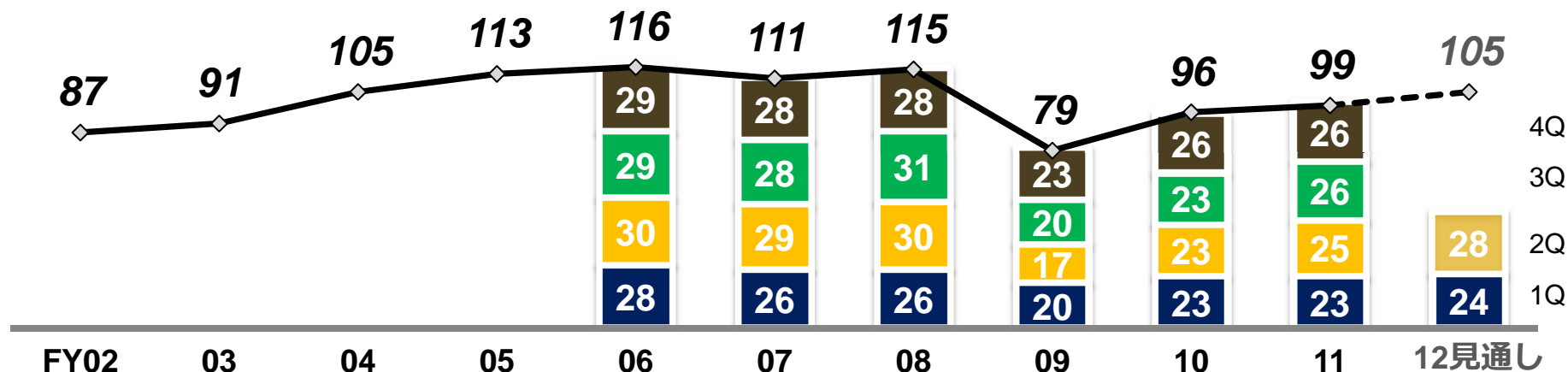
カンパニー  
売上高(億円)



# シームレスパイプ販売量推移

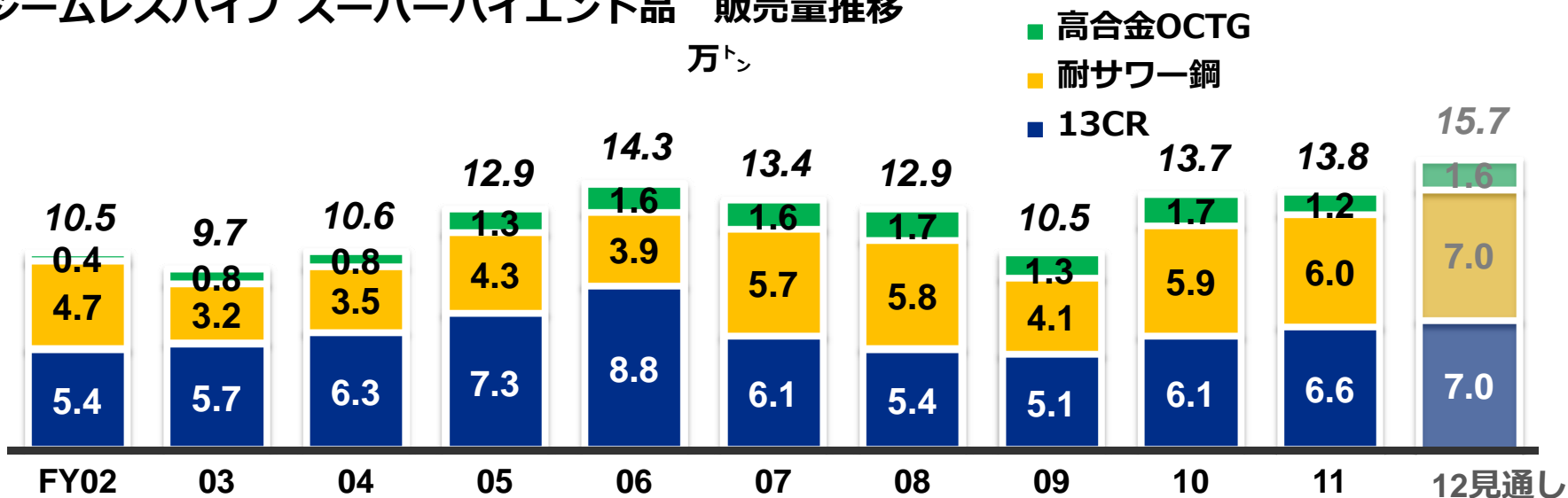
シームレスパイプ販売量推移

万ト



## シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移

万ト





# シームレスパイプ<sup>o</sup>需要・販売の状況

## ● OCTG / Line Pipe

- ➔ OCTG長期契約品：年度を通じて堅調に推移する見通し
- ➔ OCTG SPOT品:米国向けはシェールオイルの好調もあり、ハイエンド品主体に堅調。  
非米もリグカウントが高位安定しており需要は堅調。
- ➔ Line Pipe:プロジェクト向け・店売り向けとも11年度を上回る販売見通し

## ● 特殊管

- ➔ 好調な排熱回収ボイラ向けに加え、超々臨界向ボイラチューブも回復傾向、販売量は11年度並みの見通し

## ● 自動車・建機向け

- ➔ 建機向けは、海外工場向けは低調だが、国内工場および鉱山開発用の大型建機向けは引き続き堅調

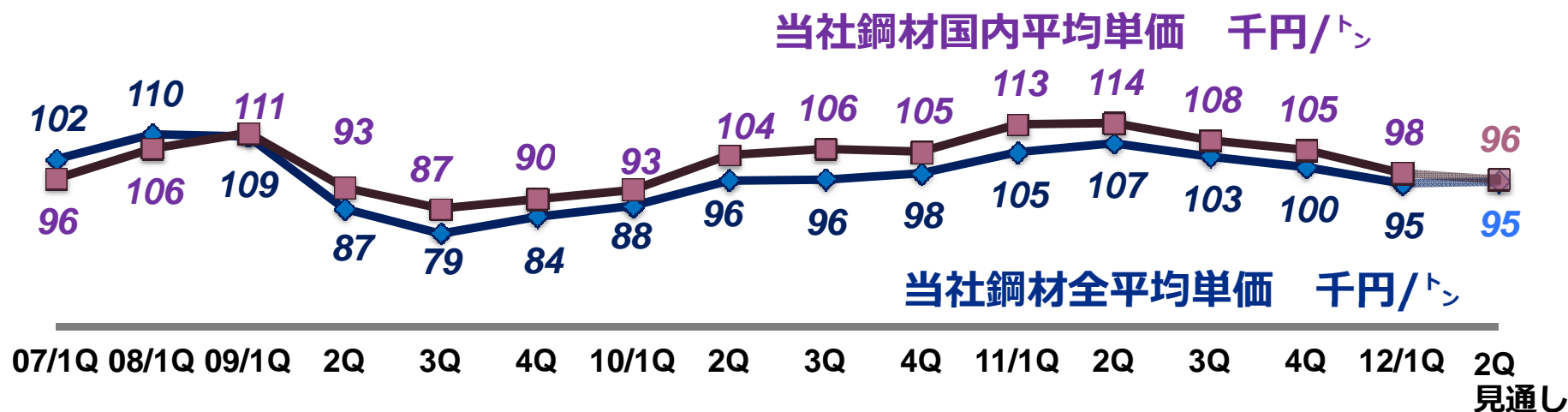
## ● VSB

- ➔ 12年度販売は5~10万トンを程度を予定、引き続き立上と顧客認定作業に注力

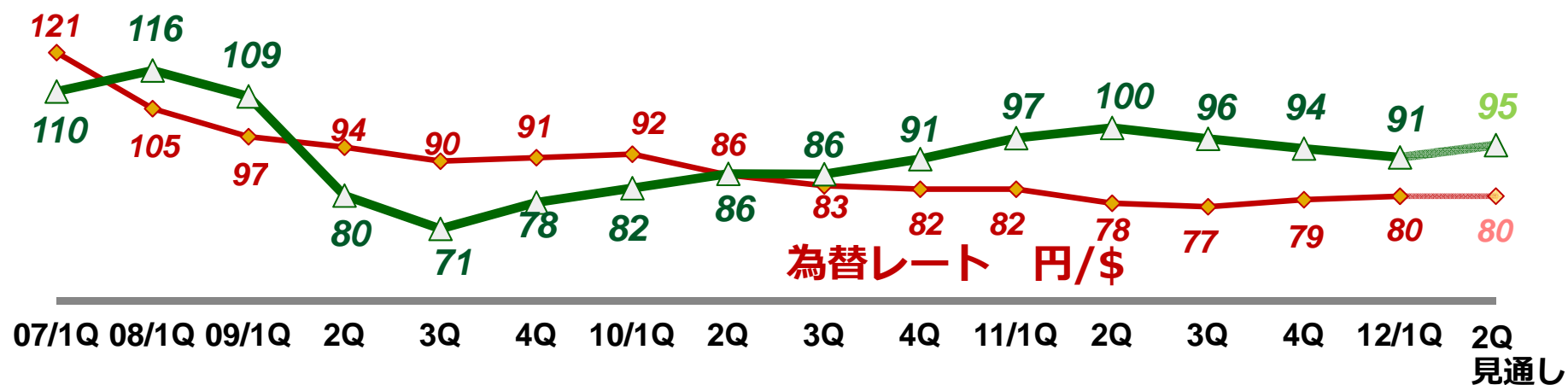
リグカウント の状況	06年 平均	07年 平均	08年 平均	09年 平均	10年 平均	11年 平均	直近
米国	1,649	1,768	1,879	1,089	1,546	1,875	(12/7/27) 1,924
深井戸 (≥15,000ft)	225	222	283	249	249	395	(12/6) 322
北米・露・中 を除く世界	925	1,005	1,079	997	1,094	1,167	(12/6) 1,285

出所: Baker Hughes, Smith international

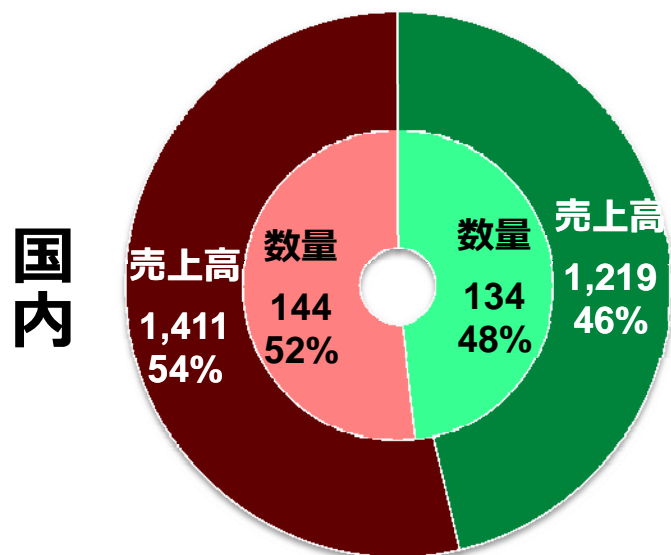
# 鋼材平均単価の推移



## 当社鋼材輸出平均単価 千円/トン



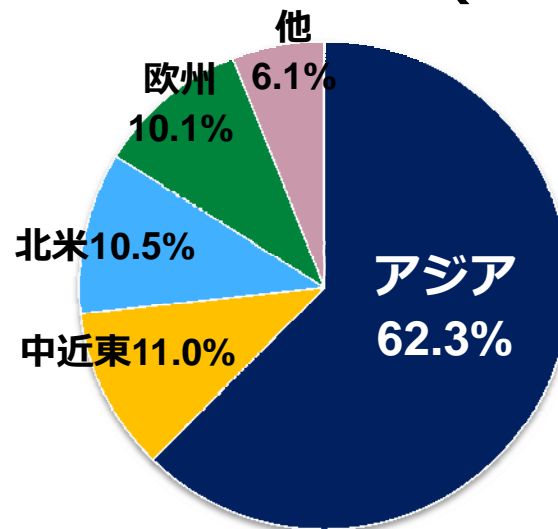
# 鋼材 国内・輸出別売上高



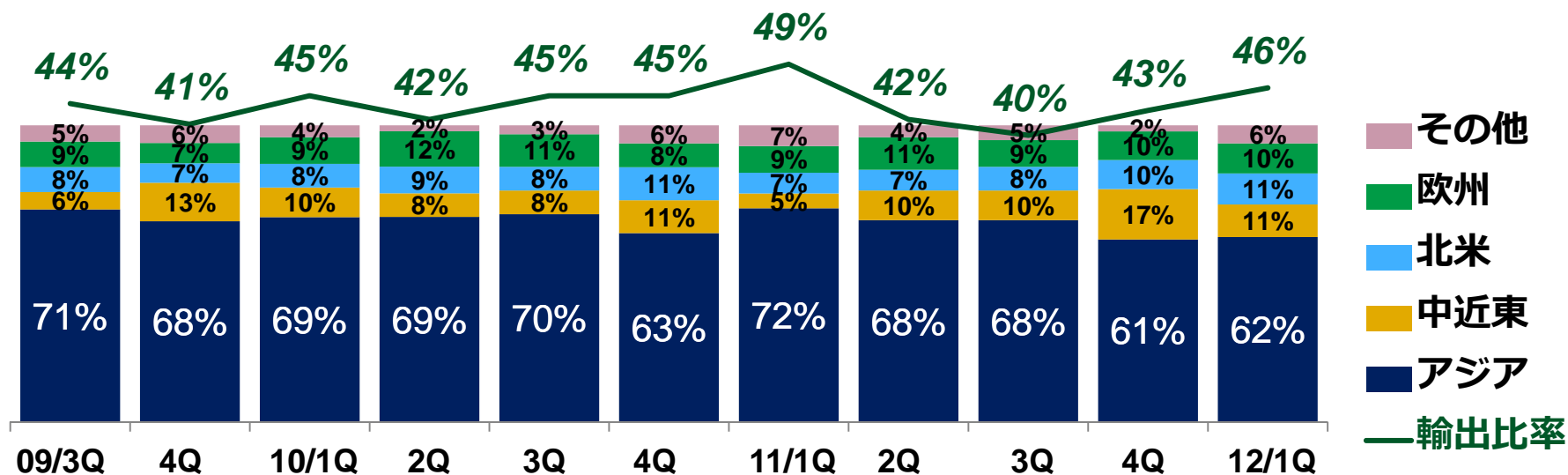
12/1Q実績  
単位:億円, 万ト

輸出

## 輸出向先別比率(金額)



## 鋼材輸出向先別比率(金額) の推移



新日本製鉄と住友金属は2012年10月1日に統合します  
総合力世界No.1の鉄鋼メーカーへ



**新日鐵住金**